

歴代議長寄稿文

平成の時代に重責を担っていただいた歴代の議長から、議員や議長在任中の思い出や八王子市市制 100 周年を機に市議会に対する思いを寄稿していただきました。



第36代議長

吉本 良久

市民サイドに立った議会活動を

私の初当選は昭和54年、その当時は経済も低成長時代、世相は作家有吉佐和子が、痴呆老人の問題を提起した「恍惚のひと」を出版して大ベストセラーになり、迫り来る高齢化社会を喚起する時でもありました。市の人口も37万人余となり、八王子市が更なる大きな飛躍をする時期でありました。

初心を忘れず「若さと行動力」をモットーに、その後、「茶の間の話題を市政に」、中盤では、「わかりやすい政治とスピードある行動」、議員後半は「簡素効率わかりやすい政治の推進」とその志を常に抱き、8期連続で市議会議員として八王子市政発展のため努力、活動して参りました。

1期目、厚生水道委員会副委員長に選任され、慣れない市役所の機構の中で、病氣療養中の委員長に代わり、熱い汗と冷たい汗を交互にかきながら委員会の円滑な運営に携わったことは、一生忘れ得ぬものとなっています。

2期目、議会運営委員長に就任、石森允議長、石井栄治議長、両議長の下、4年間、委員長を行いました。石森議長の時に新庁舎が完成し、新庁舎移転に合わせ、およそ40項目に及ぶ議会の改革を論議する検討会が設置され、議会運営委員長として検討会に出席しました。検討会では、過去に見られないほどの大変な激論が繰り広げられ、行革は議会からとの意思は実り、当初予算の審査方法、一般質問の時間制限などが実施されるようになりました。この議会改革の意義は後世においても大変大きいものだったと思っています。

3期目、第35代副議長に選出され、昭和天皇の崩御により八王子市議会代表として大喪の礼に参列もさせていただきました。

4期目の平成3年5月、第36代市議会議員に就任、更なる議会改革として、それまで第4回定例会で行っていた前年度の決算認定の審査を次年度予算に反映できるよう早期に行うように提案、平成4年から決算議案が第3回定例会に提出され、閉会中に決算審査特別委員会が開催され、審査が行われようになりました。また、それまで任意に設置されていた議会運営委員会が、地方自治法の改正により条例で設置できることとなったことから、議会運営委員会のあり方を調査研究し、条例化したことは、現在の議会運営に大きな影響を及ぼしています。

議長退任後は、毎回、本議会での一般質問を実施し、市民の願いを訴え続けてきました。今後に望むことは、チェック機能のさらなる充実と高齢社会への対応、市民サイドに立ったきめ細かい議会活動をお願いします。



第40代議長

皆川 清和

個性的で魅力あるまちに

市制 100 周年に伴い「市議会記念誌」を作成する、大きな意義に参加できる事に喜びを感じています。僭越ながら思い出すままに筆をとりました。

私が初めて八王子市に居住したのは、昭和 37 年の春、都営長房団地に入居したのが始まりで、以来、今日まで 55 年が経過いたしました。

八王子市民になって 20 年目の春、昭和 58 年に行われた市議会議員選挙で初当選させて頂き、20 年間の永きにわたり八王子市議会議員として市政発展のため活動して参りました。

私が、第 40 代議長として就任していたのは平成 9 年から 11 年の 2 年間で、本会議場での就任挨拶でめずらしく上がったことを、今でも鮮明に覚えていますし、大変懐かしい思い出です。

市議会議員として、私は、市民ファーストの信念で、何が市民のためになるのか、市民は何を求めているのか、議会と行政の役割は何かを考えながら、常に無駄を省き、合理的な議会運営及び行政改革をしてまいりました。議長は、慣例により 2 年間という短い期間ですが、その間、何件か皆様の協力を頂きながら改革を行ってきました。

当時、年 1 回、全国市議会議長会主催の海外視察が実施され、本市も当選回数が多い順に参加、いわば卒業旅行のような感がありましたので、それを改め、八王子市議会独自でテーマを決めて、当選回数に関係なく、しっかりとした目的を定めて視察を実施し、その成果を市政に大いに役立てたと自負しております。

また、市民にもっと議会に関心をもってもらおうと、年 4 回ある定例会の初日に議場でのコンサート開催を計画、当初は市内にある大学に演奏をお願いしてスタート、それ以来、お陰様でもう 20 年も続き、市民グループによるコンサートも人気があり、多くの市民の皆様にご参加いただき好評を博しております。

一市民になって 10 年、今になって反省を含めて感じている事があります。各地で地方議員による政務活動費の不正受給が発覚し、再発防止のため、様々な改善策も講じられているようです。八王子市議会の政務活動費の額はかなり低く抑えられているようですが、廃止も含めて再考すべき時期に来ていると思います。

また、議員報酬も必ずしも安くないはずですが、従って、せめて「議会の開催日数を考えればあまりにも高額だ」と言われない様に、議員一人ひとりが活動に責任と誇りを持ち、これからの八王子を個性的で魅力のあるまちにしていくなため、市民・議会・行政としっかり議論してほしいと強く望みます。



第41代議長

塚本 秀雄

リーディングシティとして更なる飛躍を

八王子市市制施行 100 周年を迎え、心からお祝い申し上げます。

私が、八王子市議会第 41 代議長に就任したのは、4 期目の最初の議会であり、平成 11 年 5 月 19 日から平成 13 年 6 月 4 日まで務めさせていただきました。

当時は、地方分権改革が、はっきりとした形となって現れようとしている時代でした。平成 11 年 7 月に「地方分権一括法」が制定され、これにより地方自治体は、「自己決定」、「自己責任」の原則のもとで運営されるようになりました。

この改革の大きな意義は、地方自治体の権限が大きくなる中で、とりわけ意思決定、立法機関としての政策決定機能をはじめ行政のチェック機能等、議会の果たすべき役割が益々大きくなることでした。

このような時期に、議長に就任した私は、その責任の重大さに鑑み、50 万市民の声に耳を傾け、その負託に応えるべく努力を重ねてきたのを思い起こします。また、前議長から継承した「開かれた議会」を目指し、会議の円滑な運営と活発な議会審議にも努めてまいりました。

多くの市民に議場に足を運んで頂き、議会をより身近に親しんで頂くために、毎定例会初日に行っていた議場コンサートを引き続き実施させていただきました。NHK ニュースで私のコメントとともに八王子市議会の議場コンサートが全国に紹介されたことは、私の最も印象深い思い出でもあります。

また、前任者の役職を引き継いだのが、人口 25 万人以上の 85 都市の市議会議長で構成する全国市議会議長会都市行政問題研究会の会長職でありました。

前年度から進めている「議会情報の公開」に関する加盟市の調査結果（市議会の公開・市議会情報の提供・市議会の情報公開の現状と課題の三部から構成）を取りまとめ発表いたしました。この報告書が、加盟市のみならず多くの市議会関係者の役に立ったのではないかと考えております。

しかしながら、今日においても議会の情報公開や透明性を問う指摘は、益々強まるばかりであり誠に憂慮に耐えません。

本市は、平成 27 年 4 月 1 日より、東京都で初めての中核市となりました。歴史と伝統を誇る八王子市が市制 100 周年を契機に、多摩のリーディングシティとして更に飛躍発展すべく、議会の機能を最大限に活用して、市民の負託に応えられるよう、なお一層の信頼性が高められることを期待します。



第42代議長

寺田 元信

次世代に誇れるまちづくりを

私の故郷横山村は、昭和30年4月、近隣6カ村とともに八王子市に合併、その記念として、横山村の中心地であった散田高宰神社前の山林を整地し、横山村由来の万葉碑を建立し、合併を祝いました。

現在は、八王子市において記念碑を含め広く整備され、万葉公園として利用されております。

私は、昭和62年4月の市議会議員選挙で地元をはじめ各地域の皆様の協力と期待のもと、当選を果たし、市議会議員の一員として活動することになりました。

初めての議会では、都市建設委員会に所属、先輩議員とともに活動し、川口地区の開発、市内マンションの建設、圏央道建設に対する反対等の問題で翌朝まで会議を行うこともあり、様々な経験と勉強をさせて頂きました。平成13年6月、第42代議長に就任、これまで議員として多岐にわたり学んだ経験と実績を基に、議会の円滑な運営を行うよう心掛けました。特に、この時期は、世の中が大きな変革期に差しかかっており、少子高齢化、国際化、IT革命とも呼ばれる高度情報化への対応に自治体の役割が問われていました。一方、前年の地方分権一括法の施行とともに自治体としての市町村の果たす役割も重要なものとなっており、チェック機関としての議会の役割もより一層重要なものとなっていました。

7月になり、東京都が都立八王子小児病院を東浅川町の都立畜産試験場跡地でなく、府中市に移転するという発表があり、これに対し、八王子市長と西多摩の市町村長が八王子市内への存続の要請を行いました。市議会としても第3回定例会の初日に「都立八王子小児病院の存続、拡充整備を求める意見書」を全会一致で可決して、副議長、病院対策特別委員長ともども東京都に持参し、副知事に手渡し存続を強く要請したことを覚えています。しかし、この要請がかなわなかったことは、大変残念に思っています。

また、平成14年4月には、関東市議会議長会の会長に、5月には全国市議会議長会関東部会部会長に就任し、関東各県の市議会議長と交流し、情報を共有できたことは、議長として大変光栄なことだと思っています。

現在、八王子市内も交通網整備が進み、まちづくりにおいても新たな都市間交流が進められるなか、次世代に譲り誇れるまちづくりを目指し、市議会において互いの英知のもと、さらに他市に誇れる八王子市政、議会、議員活動にご尽力されることを望むとともに期待しております。



第43代議長

萩生田 富司

議長としての重責を担って

記念誌発刊おめでとうございます。長年ご尽力され尊い歴史を重ねた議会関係者に心から敬意を表します。

私は、平成15年4月27日執行の市議会議員選挙で、4期目の当選を果たすことができ、臨時議会において、多くの議員のご推挙を頂き、市議会第43代議長に就任いたしました。

議会を代表する立場となるため、議長就任挨拶で、円滑な議会運営を図るため、公平公正に誠心誠意努力することを誓い、責任の重さを肝に銘じ、緊張のなか議会を開会しました。議決機関としての、我が市議会の的確な運営を図るため、副議長とも十分相談のうえ、議会運営委員会とも意思疎通を図り、適正な運営に努めながら、各種団体とも有効な関係を保つ努力を重ねました。

また、この時期は、関東市議会議長会の会長を寺田前議長が務めておりましたので、私が残任期間を務めることになりました。既に議長会の総会が八王子市で開催されることが決まっており、平成15年6月4日京王プラザホテル八王子に構成195市に来王を願い、第69回関東市議会議長会の総会を盛会に開催することができました。

関東市議会議長会会長の任期満了により、それらの役職が終わると、全国市議会議長会の副会長に選任されました。丁度、小泉政権下で地方分権を促進する時期でもあり、地方6団体の動きが激しい時でした。

会長が、北九州市議会議長でしたので、急な国等との会議には私が代理で出席することがあり、その都度間違いの無いよう慎重に対応しました。

お陰様で全国規模の問題意識を持つ機会も得られ、勉強にもなり、極めて貴重な経験を重ねることができ、私の大切な財産となりました。

片や、私のライフワークとも言ふべき、国策による多摩ニュータウン事業に土地買収から関わってきた問題意識を持って、東京都における協議会の場を通じ住宅政策に協力した地元住民の思いや、お住みになった人たちが多摩ニュータウンに住んで良かったと言われるようなまちづくりについて多岐に渡る要望もし、議論したことが、昨日のように思い出されます。

中核市になり大きく発展を目指す八王子市議会として、地方自治の本旨を踏まえ、議決機関のあるべき姿を求め、今日的な時代背景のもと、提言も踏まえ、権限・権能を十分生かして、市民により信頼される市議会を構成されるよう、心からご期待申し上げ結びといたします。



第44代議長

飯沢 俊一

真の幸せを感じられる八王子へ

八王子市議会議長より、平成の時代の議長経験者に対し、市制 100 周年八王子市議会記念誌への寄稿依頼があり、議員当時を思い出し、ペンをとりました。

私は、昭和 62 年 4 月、川口地域の保守本流であった、奥住忠一氏（元川口村長、第 25 代八王子市議会議長）、須崎竹一氏（元八王子市議会議員）の後継者として、八王子市議会議員選挙に立候補させていただきました。この選挙においては田中幸作氏（元川口連合町会長）、高野光義氏（元上川西部町会長）、福島豊吉氏（元川口中部町会長）の他、川口地区の皆様を中心に多くの方々のご支援を頂き、初当選させていただきました。

当選時は、地元の人々の力となるべく、また、支援頂いた方々の代弁者としての活動をと頑張ってきましたが、期数を重ねるに従い、八王子市全体に視野を広め、議員活動を行ってきたと自負しております。

歳を重ねたせいか、近頃「真の幸せ」について考えることがあります。世に財を成し遂げた、あるいは名誉や地位などを得たなど、傍目からは幸せそうに見えても、本人がどのように感じているか、その点だと思います。その人が、自分の持っている能力に、さらなる研鑽を重ね「やりきりつつある」「やりきった」という内面的な達成感が「財」や「地位」、「名誉」を上回る「真の幸福感」だと思います。

市議会議員として 5 期 20 年、平成 17 年 6 月には、第 44 代の市議会議長に就任、議会人として最高の地位につかせて頂いたことは、本当に幸せ者だったと、感じ入っております。

「譲って損なく、奪って益なし」昔、小学校の校庭にあった銅像の二宮尊徳公の名言の一つですが、かねてよりこの言葉を心とし、歩んできました。これから、更なる精進をしつつ、頑張っていくつもりです。

市制 100 年、そして一昨年、中核市になった本市が、更に「心豊かな八王子」「市民に幸せを与える八王子」として発展していくよう、心から願っています。



第45代議長

高木 順一

市民に優しい制度づくりを

八王子市市制 100 周年を迎え、心からお喜び申し上げます。併せて小宮町合併 76 周年でもあります。

現在の東北部地区と大和田地区及び中野地区を昭和 16 年に合併しました。このことは、現在の八王子市の発展の礎として寄与しています。この合併での税収増により、区画整理事業の第 1 号として本町地区の区画整理が開始されました。

また、昭和 30 年の大合併では地区の行政組織は守られましたが、旧小宮町は分割され東北部地区は残り、大和田・中野地区は八王子市街地に編入されました。このようなことは他に例を見ない特筆されることでもありました。

八王子市との合併では幾多の反対運動が繰り返され、警察官が動員された議会もあったことを地域の先人から聞かせて頂きましたが、相互理解のもと、現在の姿に至りました。合併により人口及び面積も拡大しましたが、合併が起因で行政運営の問題点が潜在化していることも事実です。

議長経験者として、まず議長は、円滑な議会運営と議員の主張を発揮できる環境を念頭におき、努めさせて頂きました。

平成 20 年第 3 回定例会に市長と議員の地位と影響力を不正に利用しないようにとする「政治倫理条例」が提案されましたが、それに対して、条文の一部に異なる意見を持つ議員から、翌年 1 月に対案となる「政治倫理条例」が提出され、市議会が二分されるような状態になりました。

対案の提出で、2 月に臨時会が開催されましたが会議冒頭、発言通告に個人名等の記載があり、項目削除の動議が出され、険悪なムードになりそうでしたが、議会運営委員会を直ちに開催し、議員の意見調整をし、円滑に議会を進めたことを思い出します。

また、平成 20 年 8 月には「はちおうじ子ども議会」が開催され、小中学生の子ども議員から、まちづくりに関する様々な提案があり、闊達な子供の意見を市政へ反映させることができました。この提案により、「子ども政策課」の名称が「子どものしあわせ課」に変更されたことをうれしく思いました。

議員の皆様には、これからの八王子市の発展と市民の立場に立った議員活動と議会運営をお願いするとともに、特に民主主義の発展のため、弱者に優しい制度作りを期待しまして、八王子市の益々の発展を祈念します。



第46代議長

市川 潔史

将来を視野に入れたまちづくりを

私は、平成21年6月から23年4月までの2年間、議長の任にありました。

この2年間における特筆すべき事項として、東日本大震災の発生、関東市議会議長会会長への就任、議会基本条例制定に向けての検討などがあります。

平成23年3月11日、市議会は、予算等審査特別委員会4日目、総括質疑の真最中、突然、大きな揺れに襲われた委員会室、委員長が休憩を宣言、直ちに市執行部と善後策を協議し、その日の予算等審査特別委員会を中止しました。

翌週、月曜日の朝、各会派の総意で、予算議案の議決のみをするための本会議を28日に開催することを決定し、他の全ての審議を中止し、市が行う被災地支援等をサポートすることになりました。事実、「計画停電」の実施により市民生活も不安定な状況にあり、賢明な判断だったと考えています。

また、関東市議会議長会会長の任にあった1年間は、殆どが「議員年金廃止」についての議論でした。今思えば「当然」の結論ですが、関東200を超える各市議会においては反対も多く、その中で経験豊富な先輩議長に助けられ、一定の成果を上げられたと感謝するところであります。

そして、私の議長就任時の思いは、大きく変化する時代を見据え、本議会も「改革」しなければならないとの強い危機感から、議会基本条例制定を視野に入れた検討を提案したことです。

その背景には、平成18年に財政破綻した北海道夕張市の存在がありました。経過を見れば、炭鉱閉山後の都市経営において、多くは市執行部の判断ミスとともに議会の責任を問う論評が多かったこと、併せて、名古屋市をはじめ市民受けを狙った市長サイドから、報酬等の半減、議員定数の削減等を声高々に叫ばれて、市議会の使命をないがしろにする世論が高まっていたことがあります。

その後、多くの議論を経て、平成26年4月から議会基本条例が施行されました。2年間という時間的には短い間ですが、多様な経験を積ませて頂き、改めて感謝いたします。

最後に、今後の市議会に望むことですが、議員は、多くの市民から負託を受けて、4年間仕事を行う訳です。その視点が、現在の市民、有権者への対応となるのは当然ではありますが、まちづくりには時間がかかります。即ち、現在の判断や決断が10年後、20年後の市民生活を決めてしまうことも多々あります。ならば、将来に目を向けた視野で、可能な限り勉強を重ねて、その負託に応えていくことが、最も重要な事項と考えています。



第47代議長

水野 淳

議論を通じ、更なる議会改革を

私は、平成23年4月24日の市議会議員選挙で4期目の当選を果たし、5月18日に行われた臨時市議会で議長に就任しました。

八王子市議会では、議長の資格要件として、市議会議員として4期を経験した議員が就任するというようなことがあるのですが、特に明文化された既定は無く、今後、議論すべき事項ではないかと考えています。

私が議長に就任した平成23年からの2年間は、市議会の運営以外にも全国市議会議長会、関東市議会議長会、東京都市議会議長会関連の役職が多く有り、多忙を極めました。

前議長が、関東市議会議長会の会長職にあったため、残任期間を引き継ぎ、会長として八王子市内で総会を行い、その後、相談役に就任しました。

それに併せて、全国市議会議長会での役職が部会長から副会長になり、また、東京都市議会議長会では、副会長から会長に就任し、2年間、大変充実した貴重な活動と経験ができたと思っています。

特に、全国市議会議長会副会長の時は、会長が所用で出席できない会議には、関東部会から選出されている副会長が出席することとなるため、首相官邸で行われた国と地方の協議の場での社会保障・税一体改革分科会に出席し、消費税増収分の取り扱いについて、3度出席し議論を行いました。

また、東日本大震災からの復旧・復興の早期実施の要望活動や社会保障と税の一体改革など真の地方分権の実現に向けても副会長として活動させて頂きました。

市議会では、改選前に議会基本条例等検討会が設置され、議会基本条例などを含め4件について検討され、報告書が出されていたので、私は、議長就任挨拶で、議会基本条例については、全会一致で制定を目指すことを表明しました。

平成23年10月に素案準備会を設置し、全議員研修会などを開催し、平成25年2月に議会基本条例策定特別委員会を設置しました。更に、平成24年1月には、石森新市長を迎え、公約である中核市移行に対しても、平成24年10月に中核市移行調査特別委員会を設置して議論をしました。この2件の案件を各議員、各会派の協力により全会一致で制定できたことは、八王子市議会の大きな成果であったと思っています。

これまで、八王子市議会では、様々な議会改革が行われています。しかし、変えたから良いのではなく、常に全議員で考え議論して、更なる改革が実施されて行くことを願い、記念誌の挨拶とします。



第48代議長

小林 信夫

議員の使命と責任を自覚して

八王子市議会記念誌発刊に寄せて、思うところを披歴させていただきます。

私が議長の任にあった2年間は、八王子市議会が大革命への第一歩を踏み出した極めて重要な時期であったと認識しています。

平成22年5月に議会基本条例等検討会が設置されてから3年4か月を経て、平成25年9月に議会基本条例が全会一致で可決、成立しました。

条例にのっとり、一般質問における一問一答方式の導入、議会報告会の開催、委員会における委員間討議など、新たな試みがようやく始まりました。

平成11年に成立した地方分権一括法及びその後の数次にわたる地域主権「一括法」によって、機関委任事務の廃止をはじめ、国の関与の廃止や緩和が進み、それに伴って条例制定や政策決定など、自治体の裁量権が大きく拡大されると同時に、地方自治の二元代表制の一翼を担う議会の権能もこれらの法整備によって拡大して来ました。

しかしながら、本来果たすべき行政の監視機能や政策立案機能、住民意思の集約機能などが十分に発揮されていないという厳しい批判が地方議会に向けられています。

私は、平成25年6月の議長就任に際して、「地方分権の進展とともに、議会の役割は一層重要なものとなり、その権能を十分に発揮するためには、不断の検証と改革が欠かせない。本市議会においても、議会基本条例を作っただけでは意味がない。その条例に魂を入れるものこそ、市民の負託を受けた一人ひとりの議員活動であり、民主的でありはりのある議会運営である。」との趣旨の挨拶をさせていただきました。

地方議員の不祥事や不正事件などに端を発する地方議会への不信感や議会不要論に真正面から対峙し、それを乗り越えていくためには、我々議員一人ひとりが襟を正し、議員の使命を深く自覚するとともに、議会がその権能を発揮し、その役割を確実に果たしていくための改革への不断の努力が必要不可欠であると信じています。

私の任期満了直前の平成27年4月、本市は、都内初の中核市に移行し、行政及び議会の守備範囲はますます広く、責任はますます重くなっています。

市制施行100周年の節目を刻んだ今、改めて市民福祉の向上と本市の持続的な発展に重大な責任を負う議会の役割と議員の使命に思いを致すとともに、改革の歩みを更に力強く進めてまいりたいと心中深く決意しているところです。



第49代議長

福安 徹

次の100年に向けたまちづくりを

市制 100 周年、誠におめでとうございます。

東京都で、最も歴史のある市として、次の 100 年に向けて、持続可能なまちづくりを進めていってもらいたいと考えています。

私は、平成 27 年 5 月から 29 年 6 月まで、第 49 代議長を務めさせて頂きました。

議長在任中は、全国市議会議長会、関東市議会議長会、中核市議会議長会など多くの団体での様々な会議に出席させて頂き、他の自治体の抱える問題や解決に向けての取り組みなどをお聞きしました。特に中核市議会議長会は、同程度の規模の自治体の集まりで、そこでの研究や講演は、本市の課題解決に向けた貴重な学びとなりました。

議会活動では、議会改革の取り組みを議員の皆さんと進め、恒例となった議会報告会も、その内容や開催方法などについて、多岐にわたって話し合いを実施して参りました。また、市民と議会をつなぐ、議会だよりの改革にも取り組み、愛称の公募を行い、「ひびき」という素敵な愛称を付けることができました。市民とひびき合う議会の思いが込められた名称です。また、その 1 面を飾る写真も、市民の皆さんからの公募で、毎回、八王子の四季折々の風景が紙面を飾っています。この取り組みを始めた当初は、なかなか写真が集まらず心配しましたが、今では市民の皆さんの力作が多く寄せられ、毎号どの写真を選ぶか迷っています。紙面も工夫を凝らし、分かり易い紙面構成や挿絵、写真掲載の増加、文字を大きくすることなど、一人でも多くの市民に読んで頂けるよう改良を重ねました。

今後は、人口減少高齢化社会が、確実に日本に迫ってきます。避けて通れない問題ですが、基礎的自治体としては、魅力あるまちづくりを進めていくしかないと考えています。企業誘致や企業維持に差別化した取り組みを継続的に行い、雇用と税収を確保し、子育てや福祉対策、まちづくりに取り組んでいく必要性を感じています。

八王子駅周辺、ニュータウン地区、そして高尾地区や西部地区、一つのまちで様々な顔を持つ八王子でそれぞれの行政課題は多様ですが、市民の皆さんの代表として、これからも魅力あるまちづくりに取り組んで参ります。